



東京芸術祭ファーム2023 ファーム編集室 アシスタントライター 参加者募集 [応募締切 2023年6月20日(火)16:00 (日本標準時)]

舞台芸術をつくり、届けるプロセスに「書く」を通じて参加する、実践的プログラム

東京芸術祭ファームでは、昨年「ファーム編集室」を立ち上げ、4名の「アシスタントライター」と共に、プログラムの創作プロセスやそこでのコミュニケーション、思考の変遷に向き合うレポート制作を行いました。今年も舞台芸術を言葉で記録し伝える方法を共に模索し、探求するプログラム「アシスタントライター」を募集します(有償)。

本年は、参加アーティストが各自でテーマや課題意識を設定し、それを参加者同士で共有、議論しながら掘り下げていく「Asian Performing Arts Camp」のプログラムに立ち合い、その記録としての記事執筆を担当していただきます。参加者間での対話や編集室室長からのフィードバックは、執筆のための思考や技術を深めるきっかけにもなるはずです。

「書く」ことを通じて、舞台芸術の現在と未来を豊かに開拓する、意欲ある方の応募をお待ちしています。

(実施言語：日本語)

▶こんな方にオススメ

- 舞台芸術についての文章の執筆経験を積みたい方
- 舞台芸術の作り手の活動に立ち合い、それを言語化することに関心のある方
- 記録や保存が困難なものである舞台芸術に関して、その創作プロセスを含めて言語化していくことに関心のある方
- アジアの同時代の舞台芸術に関心がある方

▶昨年度の「アシスタントライター」プログラム参加者の執筆記事は、以下よりお読みいただけます。

SNS記事 (東京芸術祭ファーム medium)



<https://tf2022aw.medium.com/>

プロセス発信記事



<https://tokyo-festival.jp/column/>

| 東京芸術祭 Webサイト <https://tokyo-festival.jp>

主催：東京芸術祭実行委員会〔公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）、東京都〕
協賛：アサヒグループジャパン株式会社

東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre

ARTS COUNCIL TOKYO



東京都

| アサヒグループジャパン株式会社

ファーム編集室 室長 鈴木理映子 より

「いま、ここ」という現実の時間の中で展開される舞台芸術を、そのままの形で記録・保管するすべはありません。とはいえ、流れ去る「いま、ここ」を記録にとどめ、歴史と接続することなしに、表現の未来を開拓することはできません。創作プロセスや周辺のコミュニティとの関係に寄って立つ企画も増えつつある近年、舞台芸術をどのように記述し、記録していくか、アーカイブへの関心はいっそう高まりつつあります。もちろん、芸術的な事象や体験を、言葉で記述し、伝達しきることも不可能です。それでも「言葉で言い表せない」ものごとに「言葉」で向き合おうとすることで、私たちは、新たな思考や対話、さらなる創造へのステップを生み出してきたのではないのでしょうか。

「ファーム編集室」では、舞台芸術が生み出され、観客（参加者）に届けられるプロセスに「書く」「記録する」ことを通じて参加し、より豊かな舞台芸術の文化を掘り起こし、育てる仲間を求めています。今回立ち会っていたプログラム「Asian Performing Arts Camp」は、アジア各地で活動する舞台芸術の担い手がそれぞれの問題意識を持ち寄り、文化や国籍を超えたディスカッション、共同リサーチを重ねるアートキャンプです。完成品や終着点を求めるのとは異なる思索、試作の過程を、皆さんと楽しみ、迷いながら、共有し発信していきたいと思えます。

鈴木理映子 SUZUKI Rieko

編集者、ライター。演劇情報誌「シアターガイド」編集部を経て、2009年よりフリーランスとして、舞台芸術関連の原稿執筆、冊子、書籍の編集を手がける。2014年には青山学院大学総合文化政策学部附置青山コミュニティ・ラボ（ACL）にて、過去の劇評掲載データを集積した「ACL 現代演劇批評アーカイブ」（<https://acl-ctca.net>）を開設、公開した。成蹊大学文学部芸術文化行政コース非常勤講師。2022年より東京芸術祭ファーム「ファーム編集室」室長。

【共著】「漫画と演劇」（『演劇とメディアの二十世紀』森話社）、「宝塚風ミュージカル劇団のオリジナリティ」（『地域市民演劇の現在』）

【監修】『日本の演劇 公演と劇評目録1980～2018年』（日外アソシエーツ）

実施概要

■ 活動内容

- 以下の東京芸術祭ファームのプログラムのプロセスに帯同し、東京芸術祭ファーム編集室室長監修のもと、SNS記事およびプロセス発信記事を執筆します。 ※活動の詳細は【別紙】をご確認ください。

記事執筆対象プログラム	内容
Asian Performing Arts Camp	アジアをフィールドとするアーティスト等がそれぞれのテーマや問題意識を出発点に、リサーチやフィールドワーク、文化や国籍を超えたディスカッション、ゲスト講師によるレクチャーやワークショップを通して共に思考を深め、今後の自身の活動やフィールドを耕すためのアートキャンプ。オンラインでの活動と東京での現地開催を組み合わせた「ハイブリッド型キャンプ」として実施される。プログラムの最後には、参加者のリサーチの結果を発表するIn-Tokyo Sharing Sessionを実施。（プログラムは基本的に英語で実施。レクチャーの傍聴等、一部通訳(日⇄英)あり）

- SNS記事：上記プログラムを見学し、活動の様子等を発信する記事を執筆。東京芸術祭ファームのブログ媒体で公開予定。
- プロセス発信記事：活動期間中に執筆したSNS記事をもとに、上記プログラムの記事を執筆し、東京芸術祭ウェブサイトにて公開予定。
- 上記活動のほか、以下のような研修や交流の機会があります。
 - オリエンテーション、ラップアップ
 - ファーム編集室定期ミーティング（室長とアシスタントライターが参加。執筆や活動内容についてのフィードバック、相談等）
 - 東京芸術祭ファーム 全プログラム共通で実施する活動（全体顔合わせ、研修、交流会等）
 - 東京芸術祭2023のプログラムの鑑賞機会（一部有償）

■ 実施日程

期間：2023年7月21日(金)～12月中旬 ※記事の公開タイミングにより多少前後する可能性があります。

● ファーム編集室 スケジュール

内容	日程	実施会場
ファーム編集室オリエンテーション	8月3日(木) 19:00～21:30	オンライン (Zoom) または 都内会場 (調整中)
ファーム編集室定期ミーティング	参加者決定後に調整	
ファーム編集室ラップアップ	12月18日(月) 19:00～21:00	

● 記事執筆、活動見学スケジュール ※記事執筆対象プログラムの詳細は【別紙】を参照

内容	日程	実施会場
SNS記事執筆：以下のスケジュールで実施される活動に帯同し、一人につき1本以上のSNS記事を執筆。		
Asian Performing Arts Camp オンラインセッション	各日3～4時間程度で実施 8月8日(火)、8月15日(火) 9月5日(火)、9月12日(火)	オンライン (Zoom)
Asian Performing Arts Camp Online Sharing Session	9月19日(火)	
Asian Performing Arts Camp 東京滞在	10月4日(水)～10月9日(月・祝) 時間未定	東京・池袋、ほか
Asian Performing Arts Camp In-Tokyo Sharing Session	10月9日(月・祝) 時間未定	東京芸術劇場 アトリエイースト アトリエウエスト
プロセス発信記事執筆：以下のスケジュールでプロセス発信記事を執筆。		
初稿提出メット	10月31日(火)	—
ブラッシュアップ期間	11月上旬～12月上旬	—
公開	12月中旬	—

● 東京芸術祭ファーム2023 プログラム共通 活動日程

内容	日程	実施会場
共通レクチャー① <ハラスメント防止研修>	7月21日(金) 15:00～17:00	オンライン (Zoom)
参加者顔合わせ	7月31日(月) 15:00～17:00	
共通レクチャー② <コミュニケーションデザイン>	8月7日(月) 19:00～21:00	
公開レクチャー	8月下旬 (日程調整中)	
主催者顔合わせ	9月11日(月) 15:00～17:00	

※詳細は参加者にオリエンテーションにてお知らせします。

※上記の活動日程以外も、随時、Slack等で情報交換を実施します。

■ 実施言語

日本語 (各プログラムの現場や交流会等でのコミュニケーションでは、英語を用いる場面もあります)

■ 活動場所

- オンライン (使用ツール：Zoom 等)
- 東京芸術劇場 アトリエイースト、アトリエウエスト (「池袋駅」西口より徒歩2分)
※編集室の会議やフィールドワークなど、活動内容によっては上記以外の場所で実施する場合があります。

東京芸術祭ファーム ラボは、さまざまな人が創造的な力を安心して発揮できるよう、「東京芸術祭ファーム ラボ ガイドライン」 (https://tokyo-festival.jp/tf_farm) に則って運営されます。全ての参加者はこのガイドラインのもと、活動に参加していただきます。

募集概要

■ 応募資格

次の1～6のすべてにあてはまる方

1. 原則、活動開始の2023年7月21日(金)時点で18歳以上35歳以下(高校生不可)
2. 東京芸術祭が行う、自身の参加プログラムの広報およびPRに協力することができる方
3. 原則、全ての実施日程(p.3)に、掲載のスケジュール・会場での参加、活動が可能な方
※参加ができない日程がある場合は、応募時に日程を明記してください。
※東京での現地開催の活動で、現場帯同が可能な方。(宿泊費・滞在費等のサポートはございません)
4. 日本語でのやり取りや記事執筆が可能な方
5. オンラインでの活動に必要な環境を整えられる方
 - セキュリティに問題がないインターネット接続環境
 - グループビデオ通話、動画閲覧、大容量ファイルのダウンロード等に十分に対応できるインターネット接続環境
 - Zoomのグループビデオ通話*、Slack、Miro、Google Drive、One Drive が利用できる端末(使用ツールは参加者の状況やプログラム内容に応じて追加、変更となる可能性あり)
*Zoomの使用に必要なシステム要件：<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>
 - スマートフォンのみでの参加は非推奨
6. 東京芸術祭ファームの関係者と信頼関係を築きながら業務を遂行する意思のある方

■ 謝金

5万円(税込) ※活動に最後まで参加し、SNS記事1本以上、プロセス発信記事を提出した場合にお支払いします。

*インボイス制度について

令和5年10月1日より「インボイス制度」が開始されることに伴い、適格請求書発行事業者の登録番号をご提示いただきます。登録番号のご提示の無い方は、消費税相当額を満額お支払いできない可能性がありますことご了承ください。

■ サポート

- 執筆したSNS記事およびプロセス発信記事に対する、室長からの助言・フィードバック
- 移動が発生した場合は、交通費別途支給(1日あたり上限1,000円)
- 東京滞在期間のイベント保険加入(10月3日～10日)

■ 募集人数

2名程度

■ 選考スケジュール

応募受付	応募締切：2023年6月20日(火) 16:00 (日本標準時) ・オンラインのフォームにて受付
一次選考：書類審査	結果発表：2023年6月30日(金)までにメールにて合否を通知
二次選考：面接	選考実施期間：2023年7月3日(月)～7日(金) ・オンラインにて実施(使用ツール：Zoomを予定)
採用者決定	結果発表：2023年7月19日(水)頃までにメールにて採否を通知

※採否に関わらず、選考の結果は応募者全員にメールで通知します。必ず、Farm-Lab オフィスからのメール(farm@tokyo-festival.jp)が受け取れるようパソコンや携帯電話の設定をご確認ください。

■ 応募方法

以下、応募フォームより必要事項を入力の上、送信してください。

応募フォーム <https://sgfm.jp/f/farm2023AW>

<必要事項>

1. 氏名
 - 自分に対して使用してほしい代名詞 等 (he/him、she/her、they/them、名前 等 / 自由記述)
2. 活動拠点 (都市名 / 複数ある方は全て)
3. 生年月日
4. メールアドレス
5. 連絡先住所
6. 日中連絡のつく電話番号
7. 職業 (所属など)
8. 略歴 (日本語、400字以内)
※文章執筆に関して学んだ経験があればそれも含めて記入してください。
9. これまでの文章執筆 (題材やジャンルは問いません) の経験を説明してください。
10. 応募動機 (日本語)
11. 執筆課題 (日本語、以下の課題について800~1500字程度で記述してください。)

課題内容

「あなたが最近見た舞台芸術作品、もしくは経験した (※) アートプロジェクトについて、その上演／プロジェクトについての知識がない人にも理解できるよう、あなたなりの視点を交えて紹介してください。必要であればタイトルも設定してください。(800~1500字程度)」

※鑑賞者として最終的な、あるいは一時的、中間的なアウトプットのみに接した、というような場合も含まれます。

12. オンラインミーティング等に使用する機材 (選択式)
※オンラインでの活動に必要な環境は「応募資格」 (p. 4) を確認してください。
13. 参加に際して使用するネットワーク環境
14. 実施日程 (p. 3) の内、参加ができない日程や活動ができない期間 (あれば)
15. 二次選考期間 7月3日(月)~7日(金) の内、面接に参加できない日時 (あれば)
16. 東京芸術祭ファームの他プログラムで応募を予定している、または応募済みのもの (あれば)
※同時募集している他プログラムへの併願は可能です。
17. 応募にあたっての連絡事項など

■ 留意事項

お預かりした個人情報は厳重に保管し、本企画に関する諸連絡以外に使用することはありません。

[お問合わせ] Farm-Lab オフィス MAIL : farm@tokyo-festival.jp TEL : 03-4213-4293 (平日10時~18時)

※記載の情報は2023(令和5)年5月25日現在のもので、内容等は変更になる場合がございます。

東京芸術祭ファームとは

東京芸術祭ファームは、東京芸術祭の人材育成と教育普及の枠組みです。アジアの若いアーティストの交流と成長のためのプラットフォームであったAPAF (Asian Performing Arts Farm) に、フェスティバル/トーキョー (F/T) の研究開発・教育普及事業が合流し2021年にスタートしました。

今年の東京芸術祭ファームは、研究開発を通じた人材育成のための「ラボ」と、教育普及のための「スクール」の2つのカテゴリーで様々なプログラムを実施します。「ラボ」では、他者と協働しながら地域や分野を超えた「トランスフィールド」を開拓し、今後ますます流動的になる様々なボーダーを自由に行き来して活躍する人材の育成を目指します。「スクール」では、大学生を中心とした若い観客を対象に、レクチャーの受講やトークイベントへの参加など、舞台観劇を通して、考え、交流する機会を提供します。

【別紙】

活動期間中に担当するプログラムについて

活動期間中は以下のプログラムに立ち会い、その記録としての記事執筆を担当していただきます。

東京芸術祭ファーム2023 Asian Performing Arts Camp

参加者それぞれの活動テーマや関心領域を出発点に、レクチャーやディスカッション、協働して行うリサーチを通して共に思考を深めるプログラムです。約1ヶ月半にわたり定期的にオンラインセッションを重ねた後、参加者は東京に集結し活動を共にする「ハイブリッド型キャンプ」として実施します。活動の最後には、参加者全員が期間中に取り組んだリサーチを一般公開のプレゼンテーションにて発表し、ゲストや観客とも意見を交わすことで、アーティスト自身のステップアップを目指します。期間中はファシリテーター2名が参加者に伴走し、国や文化を超えた協働の可能性を共に探求していきます。ファシリテーターは、昨年より継続して山口恵子、ジェームズ・ハーヴェイ・エストラーダが務めます。

Asian Performing Arts Campの詳細は、以下より、参加者公募の募集要項もあわせてご参照ください。

https://tokyo-festival.jp/tf_farm

【Asian Performing Arts Camp 実施日程】

	日程	実施会場
オンライン活動	各日3~4時間程度で実施 8月8日(火)、8月15日(火) 9月5日(火)、9月12日(火)	オンライン (Zoom)
Online Sharing Session	9月19日(火)	
東京への滞在	10月3日(火)~9日(月・祝)	東京・池袋
In-Tokyo Sharing Session	10月9日(月・祝)	東京芸術劇場アトリエイースト またはアトリエウエスト
チェックアウト / 海外参加者帰国	10月10日(火)	
ラップアップ / 修了式	10月17日(火)	オンライン (Zoom)

※期間中は、活動日以外も随時Slack等で連絡・情報交換を行います。

※オンライン活動の実施時間は参加者の時差をふまえて調整し、7月末までに参加者へ連絡します（参考：昨年は14:00~17:00（日本標準時）で実施）。

■ Asian Performing Arts Camp 実施方法・内容

オンライン活動	Zoom、Miro、One Drive等のオンラインツールを使用し、ディスカッションやワークショップ、レクチャー受講などを行います。各自がプログラムの活動時間外に行うリサーチの進捗共有も行いながら、参加者同士のコラボレーションの可能性についても探求します。
Online Sharing Session	各参加者がリサーチやプロジェクトの途中経過をオンラインでのプレゼンテーションとして発表します。東京芸術祭や東京芸術祭ファーム関係者を観覧者として招待します。
東京への滞在	現地でのディスカッションやワークショップ、レクチャー受講の他、東京芸術祭関係者との交流、劇場や現地アーティストの訪問等のフィールドワークを実施予定です。In-Tokyo Sharing Sessionに向けては、滞在中に各自がリサーチや準備を進めます。
In-Tokyo Sharing Session	参加者それぞれが期間中に取り組んだリサーチの結果を一般公開（要予約・観覧無料）のプレゼンテーションで発表し、ゲストフィードバックを迎えてのフィードバックセッションを行います。

※プログラムの活動や参加者同士のコミュニケーションは全て英語で行います。プレゼンテーションやフィールドワーク、またスタッフとのコミュニケーションで、日英通訳が入ることがあります。